

私の本の読み方

教授 木 船 憲 幸
(教育・障がい児心理学)

平成25年の12月になり、冬も本格化してきました。4月に大谷大学に赴任して、早くも9ヶ月がすぎました。図書館の「書香」に何か書くようにとのご依頼をいただき、色々と考えてみました。今回は私の小説の読み方について書いてみようと思います。

私の読む小説の多くは、海外の小説の翻訳物です。特に、探偵小説や冒険小説やスリラー（ホラーではありません）を多く読みます。

小説を読む時に、多くの方は最初から順番に読んでいくと思います。そして、「結末はどうなるのだろう？」と期待して、ドキドキして、自分なりに予想して、読んでいくことと思います。

私は、最初に「最後の結末」を読みます。そして、「ああ、こんな結末になるのか」と知ると安心します。そして、最初から読み始めます。

このような読み方をしていると人に話すると、「おもしろくないでしょう」とよく言われます。そうかも知れませんね。「でも」と言わせていただくと、特に「おもしろくない」とは感じていません。なぜかは、自分にも分かりません。

また、どうして「結末から読むのですか」



と聞かれて、考えてみるのですが、どうしてかは分かりません。色々と屁理屈的な説明はできます。例えば、「気が短いので」、「主人公がどうなるのか気になって」、「ハッピーエンドになるとよいので」、等々いくらでも屁理屈の説明をしています。しかし、その説明が本当にあたっているのかも分かりません。

もう一つ別の読み方というか、小説を読む時の「くせ？」があります。それは、同じ本を何度も何度も読むと言うことです。それこそ、毎日毎日読みます。それが1ヶ月以上も続くことがあります。その結果、殆ど暗記してしまって、次はこのような文章になると、先読みしながら、文字を追っていく毎が続きます。家内からは「あなたって、変わっているわね」と言われます。

そして、ある時にふと、その本がおもしろ

くなくなって、別の本を読みはじめます。すると、同じこと、つまり、毎日毎日その本を読み続けます。ちなみに、歌を聴くことも同じで、同じ歌を毎日毎日、エンドレスのように聞いています。そして、ある時に、ふと、その歌に飽きている自分、「別の歌がいいなあ」と思っている自分に気がつきます。

このような毎日の繰り返しが続いています。

最後に、海外の小説については翻訳本で読んで、おもしろかった小説の英語版を買って

きて読むことが好きです。翻訳本で内容は分かっているので、知らない単語などが出てきても「ストーリーの流れが分かれば良い」と思って、読んでいます。そして、「おお、この英語表現は、日常的に使える!」と思ったものを覚えて、機会があれば使ってみます。古い小説が好きなので、現代ではあまり使われていない表現であるかも知れないのですが。